

(様式 1)

「リーディングスキルテストを活用した論理的思考力の育成推進校」実績報告書(2年次)

1 学校名等

学 校 名	福知山市立三和中学校					校長名	川端那美代	
研究教科・領域等	論理的思考力の育成							
研 究 主 題	論理的思考力の育成 ～ことばの力を育成し、体験から学び考え、リーディングスキルの向上を目指す～							
研 究 の 目 的	教科書が読めない子どもが多いという背景の中、自分で文章を読み取ったり、情報を活用したりしながら学びを進めていくことができる児童・生徒の育成のため、リーディングスキルテストを活用して論理的思考力を育成したいと考えたから。							
学 年	6 年	7 年 (中 1)	8 年 (中 2)	9 年 (中 3)	特別支援	合 計	教職員数 ※校長・教頭を含む	
学 級 数	1	1	1	1	0	4	24（小中合わせて）	
児 童 生 徒 数	13	19	17	23	0	72		

2 研究校の概要

本校の生徒は小学校からのスピーチなどの成果として、話す力・聞く力は高い。一方で、読む力・書く力が低い。また RST の結果から、文章を表層的に読んでおり、趣旨を理解することができていない生徒も多いことがわかった。

本校では研究部を 3 つに分け、論理的思考力育成推進部では授業改善を、学力充実推進部では学力補充を、三和創造学習推進部では総合的な学習の中で三和地域から様々なことを体験を通して学ぶことを推進している。

3 主な研究活動

- 講師招聘した授業研究会・校内研究会を実施(年 6 回)
講師 京都府教育委員会指導主事 菊井雅志様、福知泰輔様
京都教育大学教授 植山俊宏様

7 月 15 日	授業研究会	公開授業(4 年理科) 菊井指導主事による講義 「リーディングスキルテストを活用した論理的思考力の育成推進校」
7 月 17 日	授業研究会	公開授業(5 年国語・8 年国語) 植山教授による講義 「福知山市立三和小・中学校『ことばの力育成』の取組」
7 月 29 日	校内研修会	1 学期の研究のまとめ 菊井指導主事からの指導助言

9月23日	授業研究会	公開授業（2年国語） 植山教授による講義 『『学びの小論文グランプリ』を考える』
11月11日	授業研究会	公開授業（8年国語） 植山教授による講評
11月25日	校内研修会	福知指導主事による RST の分析結果報告 研究発表の指導案検討

- ・ 毎週金曜日に10分間のリーディングスキルタイムの実施（新聞記事の読み取りや要約）
- ・ 小学校の朝のスピーチやディスカッションなどの言語活動
- ・ 授業研究会、校内研修会の実施（年14回）
- ・ 思考ツール・組み立てシート・課題解決型学習・語彙力向上を取り入れた授業実践
- ・ 学力充実推進部と連携し公開授業週間を実施…全教師が授業を公開（7月）
- ・ 三和創造学習推進部とも連携し、9年生による福知山公立大学の学生への三和をめぐる地域ツアーの企画プレゼンテーション（11月）
- ・ 研究発表会の開催（1月）

4 今年度の研究の成果と検証

- ・ 外部講師の専門的視点からの講義や指導を通して、理論研究や授業研究を深め、教師の授業力を高めることができた。



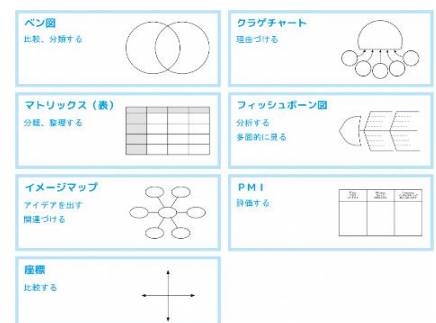
菊井指導主事による講義（7月）



植山教授による講義（7月）

- ・ 本年度の RST の結果は前年度と比べてほとんどの項目において数値が上昇した。日々の授業実践やリーディングスキルタイム等の取組を通して、文章を読んで趣旨や内容を読み取る力が付いてきたと考えられる。

- ・ 校内での授業研究会・公開授業週間・校内研修会を通して、思考ツールの活用や語彙力を向上させる取組などを共有することによって、教師自身の授業改善につながった。



- ・ 「第8回小論文グランプリ」において2名の生徒が入選した。国語科の説明文の授業で、文章構造(抽象→具体→抽象の流れなども含む)を確認させた上で、筆者が読者に分かりやすく説明するために工夫しているところや、自分の論に説得力を持たせるために、どんな工夫をしているかについて考えさせた。また、作品の題名を批判的に考えさせたり、文末表現（「～のだ、

～のである」)に着目させたりする指導を行った。

5 今年度の課題

- ・ 本年度の RST の結果から唯一伸長が見られなかった推論の力を伸ばすためにも、文を表層的に読むのではなく、俯瞰的に読む力を育成することや、語彙力を向上させ、言い換えられた言葉も理解できるような力を付けていく。
- ・ どの教科にも共通する小中一貫した授業スタイルを確立し、9年間を見通した論理的思考力の育成を目指す。
- ・ 児童生徒の論理的思考力をさらに伸ばすため、相手意識を持たせた話合いやプレゼンテーションなどの活動と併せて、言葉あつめや辞書の活用等、語彙力の向上に向けた取組を継続していく必要がある。

6 事業終了後の研究構想

- ・ 小中一貫校である強みを生かして、これからも校内研修会や授業研究会では小学校中学校の授業実践を共有し、教師の指導力の向上を目指す。
- ・ 思考ツールの活用を更にレベルアップさせ、生徒自身が使いこなせるように教科横断的に活用できるきっかけを準備する。
- ・ 3部のつながりを大切にし、授業以外の特別活動や総合的な学習の時間の中でも論理的思考力育成のチャンスと捉えて、生徒の活動の場を増やしていく。